

2022年度

# 事業報告

社会福祉法人にじのこ福祉会



概 要

にじのこ福祉会の概要

1. 法人の概要

経営主体 社会福祉法人 にじのこ福祉会  
 所在地 岡山県岡山市中区桜橋三丁目1番51号  
 TEL 086-272-4111  
 FAX 086-272-4171  
 代表者 理事長 浪尾淑子  
 法人設立年月日 2010年7月1日

2. 理事会・評議員会 開催状況

(1) 理事会開催状況

開催年月日	出席者人数	議 題	欠席者氏名	出席監事氏名
2022 5/27	理事7名 監事2名	<b>第1回理事会</b> 第1号議案 2021年度事業報告及び決算の承認について 第2号議案 評議員会の招集について 第3号議案 コロナ対応手当の支給について ○報告事項		山崎由佳利 藤原弘典
2022 7/29	理事7名 監事2名	<b>第2回理事会（書面議決）</b> 第1号議案 役員賠償責任保険の更新について	書面議決	山崎由佳利 藤原弘典
2022 9/20	理事7名 監事2名	<b>第3回理事会</b> 第1号議案 規定類の改定および協定書について 第2号議案 県産材利用促進対策事業による補助金の活用について 第3号議案 処遇改善等加算Ⅲ（仮称）の支給について ○報告事項		山崎由佳利 藤原弘典
2022 11/26	理事7名 監事2名	<b>第4回理事会</b> 第1号議案 規定類の改定について 第2号議案 地域における公益的な取組について ○報告事項 ○協議事項		山崎由佳利 藤原弘典
2023 1/25	理事7名 監事2名	<b>第5回理事会（書面議決）</b> 第1号議案 人勤による公定価格改定差額分の支給について	書面議決	山崎由佳利 藤原弘典
2023 2/17	理事7名 監事2名	<b>第6回理事会</b> 第1号議案 規定類の改定について ○報告事項 ○協議事項		山崎由佳利 藤原弘典
2023 3/7	理事7名 監事2名	<b>第7回理事会</b> 第1号議案 2022年度補正予算について 第2号議案 副主任の任命について 第3号議案 2023年度事業計画書について 第4号議案 2023年度当初予算について 第5号議案 2023年度役員等報酬総額について 第6号議案 評議員会の招集について 第7号議案 企業財産保険の契約更新について ○報告事項		山崎由佳利 藤原弘典

2023 3/28	理事7名 監事2名	<b>第8回理事会</b> 第1号議案 労働組合への回答書について 第2号議案 規定類の改定および協定書について 第3号議案 当座貸越の契約更新について ○報告事項		山崎由佳利 藤原弘典
--------------	--------------	--	--	---------------

## (2) 評議員会開催状況

開催 年月日	出席者 人数	議 題	欠 席 者 氏 名	出席 監 事 氏 名
2022 6/13	6名	<b>定時評議員会</b> 第1号議案 2021年度決算承認 (計算書類・財産目録の承認)の件 報告第1号 2021年度事業報告の件	上羽佳子 武田英夫	山崎由佳利 藤原弘典
2023 3/20	8名	<b>第2回評議員会</b> 第1号議案 2022年度補正予算について 第2号議案 2023年度事業計画書について 第3号議案 2023年度当初予算について 第4号議案 2023年度役員等報酬総額について		山崎由佳利 藤原弘典

## 3. 監事監査の実施状況

### (1) 監査日程等

2022年5月17日(火)10時00分から

山崎由佳利監事(業務監査)・藤原弘典監事(会計監査)

### (2) 監事監査の評価

(保育)

- ・保育の目標を達成するために、基本的な考えのもと計画性のある保育が実践できるように日々の保育に必要な計画、実践記録、評価が丁寧に作成されている。指導的立場のリーダーを置くことで、保育の伝承にも繋がっているのではないだろうか。
- ・安全管理では様々な危機や災害を想定し、マニュアルを作成、災害時の訓練や地域との連携強化に務めている。特に長引くコロナ対策では日常業務以外に多くの労力を要しているが、職員間の連携努力で混乱せずに保育が進められているようだ。
- ・保護者との連携では、日々の保育の伝え方などを工夫し、園への理解信頼を得る努力が見られる。時代に合った発信方法なども模索し、常に研究していこうとされる姿勢が頼もしい。保護者との日々の細かい連携を大事にすることこそ、子どもの成長と安定した園運営に欠かせないと感じた。
- ・障害児や家庭支援の必要な子どもが増える中では、関係機関とも連携を取りながら、子どもにとって園が楽しい場所であるよう現在の取組みを大切に続けていただきたいと感じている。

(法人運営、財務その他)

- ・理事会・評議員会の開催については丁寧に議題が準備され、適切に運営されている。議決も適切に行われており、議事録もわかりやすく整理されている。今後もこのような運営を続けていただくようお願いしたい。

- ・会計管理は適正に行われていることを確認した。新型コロナの影響で情勢が不安定な中、園長をはじめとした職員の奮闘で十分な利益を出し、安定した経営が続けられていることを評価したい。
- ・2021年度は増築や新たな事業展開などは無かったが今後の中・長期の計画の中でどんなことができるのか、理事会・評議員会の中でもご提案いただき議論を深めてほしい。
- ・前年度に続き、新型コロナ対応に追われた一年で、職員の皆さんも対応に苦慮されたと推察するが、今はいつ・どこで・誰が感染しても不思議ではない状況が続いている。その中でもこれまで通りマニュアルに基づいた最善の感染対策を徹底し、園児、職員を守る取り組みを継続していただくようお願いしたい。

#### 4. 職員採用状況

##### (1) 2023年度 正規職員採用状況

保育士 3名

\* 新卒者（中国学園大学） 曳木 萌  
 （山陽学園短期大学） 森藤 歩美  
 應武 愛夏

栄養士

\* 新卒者（中国学園大学） 下田 莉佳子

##### (2) 2023年度 正規職員採用試験

（保育士） 2022年 8月 6日（土） 9:00～13:30 2名のうち1名採用  
 2022年 8月20日（土） 9:00～13:30 2名のうち2名採用  
 （栄養士） 2022年12月17日（土） 9:00～13:30 3名のうち1名採用

##### (3) 2023年度職員採用状況と2022年度職員退職状況

職員採用については、全国的な保育士不足が進行している。

その中で、例年開かれている「山陽学園短期大学保育士合同面談会」がビデオレターという形での開催になった。15分ほどの内容ではあったが、職員と共に作成したアルバムを片手に園長が保育内容や労働条件などを説明した。その後、大学が行った視聴アンケートで、当園に対する評価が高かった。学生の感想には、「就職したいと思っているのでしっかり視聴した。就職フェスの印象と同じで職員や子どもを大切にしていることがよくわかった。」「少人数クラスを実現することでひとりひとりとの関係を深められる点や落ち着いた雰囲気保育できる点が魅力的だと思った」「一人ひとりを大切にするために担当制の保育をしていて興味を持った」「子ども達の関わり合いが豊かに持てる異年齢混合保育に興味を持った」「自分の保育園に子どもを預けながら働けるのは素敵だと思った」「資料の中の写真を見ると、先生同士が本当に仲良しなのだと思った。長く働き続けられる職場だと思った」などの感想が寄せられた。

今期は、正規職員として保育士3名と栄養士1名を採用した。毎年欠かさず、卒業生を紹介してくれる山陽学園短期大学は、当園に対する信頼も厚く、卒業生である職員の仕事を授業で紹介したり、学生アルバイトを紹介してくださっている。また、今期は当園でアルバイ

トをしていた学生が受験し採用に結び付いた。また、バイト先である学童の先生から「岡山協立保育園は子どもにとって良い保育をしているので就職先として検討してみてはどうか」という提案を受け受験し採用に結び付いたケースや、「岡山市私立保育園・認定こども園園長会就職フェス」でも、多くの学生が話を聞きに来てくれ、バイト先の園からの就職依頼を断り当園に就職してくれたケースもある。

採用に至るケースをみると、保育の理念や保育内容への魅力と同時に、法人が先駆的に進める職員の処遇改善（事務時間の保障、希望休暇の取得、有給休暇の消化期間中の消化など）が評価され採用に結び付いたと思われる。

今年度の退職者（5名）と退職理由については以下の通りである。

- 正規保育士
  - ＝新たな資格取得により障害児分野に就職。家族のケアのため週休2日の職場を希望  
(勤続4年)
  - ＝学生時代から希望していた病児保育に就職（勤続5年）
  - ＝実家の近くで働きたい（勤続6年）
- 正規栄養士
  - ＝県外に移動し、保育園の給食を作りたい（勤続3年）
- 非正規短時間保育士（社保対象外）
  - ＝体調不良の両親の面倒を見たい。子どもが高校進学し、自分の時間も大切にしたい。  
今後は、子どもの豊かな体験を保障したいので、園外保育のボランティアとして関わりたい。

直接的な退職理由ではないが、コロナ禍の影響も大いにあったと考えている。職員には、休憩時間は飲食が伴うため席を指定し会話を慎むようお願いした期間が長くあった。このことで、日常的に行われていた「保育内容の交流」や「担当児に関する悩みの相談」など、対話を気軽に行う雰囲気壊れた。雑談の中で自分の興味関心のあることを話しお互いを知ることや悩みに対する答えがなくても、みんなに聞いてもらえたという安心感を感じる事が極端に減り、悶々とした気持ちで自宅に帰ることが多かったという話を職員面談の際に聞いた。また、行動制限により、余暇にリフレッシュすることや友人等と関わる事が減少していることも要因になったと考えられる。

これもまた、直接的な退職理由ではないが、物価高騰の影響もあると考えられる。退職する正規職員は、全員アパートで暮らしていた。中には「生活が苦しい」「病気ばかりするから」という理由で実家暮らしに戻る者もいた。このような中、2023年度からは一人暮らしの職員の家賃補助の見直しを行うことにした。

# 事業報告

## I. 法人事業報告

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、換気や手洗い・うがいの励行、検温等の基本的な感染対策は継続したが、理事会・評議員会等の運営は対面による会議を主とした通常の形態へ戻した。そのため、懸案であった、中長期計画の具体的な協議を本格的に開始することができた。2022年度第4回理事会は、初めての試みとして、11月26日（土）に『一日理事会』と称して、情勢に関する学習や中長期計画についての協議を実施した。法人設立当初より、定例の理事会は、平日の18時から開催していたため、じっくりと学習したり、将来の法人運営や事業運営について協議をする時間の確保が難しかった。今回、一日かけて、様々な話をする機会を持ったことで、現在直面する課題だけでなく、今後、法人がどんなことを大切にしながら事業展開をすすめていくのか、また、役員それぞれが持っている知識や専門性、それぞれが願う子どもたちの未来について、役員同士、お互いの共通理解を深める時間になった。会議後は、各役員から一定の評価を得たと感じた。

前年度の事業報告で挙げていた、オンライン会議の環境面での課題については、専門事業者に依頼して環境の整備を実施したため、会場とオンラインとを併用で開催した会議はスムーズに議事進行することができた。

岡山市指導監査による法人監査については、『「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う社会福祉法人の運営に関する取扱いについて（その6）」に基づく、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から延期する』旨を文書によって通知され、延期となった。

### （中期計画）

法人監査の中で今後の事業展開について議論するよう提案を受けていたが、今年度は中期計画（5ヶ年計画）のスタートの年と位置付け、コロナ後の事業展開について検討した。

その中で、子どもに豊かなあそび環境を保障するために考えた「園庭整備」や「連絡通路の確保工事」、一部園舎の修繕工事、ICT化の取り組み強化と一本化による保護者の利便性と職員の業務省力化へ取り組む。障害をもつ子どもや保護者が安心して利用できる「児童発達支援事業」の検討などを決めた。そして、これらの事業の担当者として、次年度から副主任になる職員にそれぞれを受け持ってもらうことにした。来年度から各分野が本格的に始動することになる。

## 1. 岡山医療生活協同組合との連携

### （1）一時保育事業での協力

岡山医療生協は、地域の事業所として「一時保育事業」を職員に紹介している。

今年度も、職員の子どもが利用するケースが複数あり、岡山医療生協は、職員の職場復帰が実現し、保育園は毎日利用する子どもを安定的に受け入れることができた。

今年度は、コロナウイルス感染症のこともあり、毎日利用でき健康観察を継続できる子どものみ受け入れを行った。

## (2) 地域の子育てを応援する活動

岡山医療生協内の組織編成により「子育てサポート委員会」がなくなり、「くらし・ボランティア委員会」で子育て関連事項についての検討を行うことになっている。全国に先駆けて岡山医療生協が力を入れてきた「地域の子育て支援」が、今後、岡山医療生協の体制に変更があっても、保育園としては地域の子育てのために力を尽くしていきたい。

今年度は、久々に「パパ・ママ's カフェ」を行った。当園からは、園長・主任・保育士の3名が参加した。カフェでは、参加者からの悩みを聞き、園長が子育てのヒントや子どもへの対応の仕方などの話をした。そして、主任らは子どもの保育をボランティアさんと共に行った。参加者の感想では、「楽しくためになった」「子どもから離れた時間が持てて良かった」「孫の子育てについて聞きたいことがあり参加したがよくわかった」という評価があった。

## (3) 園児と高齢者との交流

5歳児は、毎月開かれていた「旭東学区ふれあい会食」で高齢者との交流を楽しんでいたが、今年度も、コロナウイルス感染症拡大防止のため実施できなかった。子どものためにも必要な経験なので、次年度は、地元住吉町で実施されている「サロン」に参加できるよう検討したい。

# 2. 職員が働き続けられる職場環境づくり

## (1) 職員給与の改善について

前年度末の、2022年2月から実施された『保育士・幼稚園教諭等処遇改善臨時特例事業(以下「臨時特例事業」という)』は、今年度9月まで実施されたのち、10月より処遇改善等加算Ⅲへ制度が移行して、補助事業から公定価格による加算の位置づけとなった。制度の趣旨と加算額の算定方法は、補助事業と同様の内容で踏襲されたが、制度が移行した10月以降も、在籍する全職員に対して「特別配分手当」として支給することは変更せず、各職員への手当額の算定方法のみ理事会による協議を経て変更した。変更後は、職種や採用形態にかかわらず、月当たりの各職員の所定労働時間に応じた金額を支給することとした。

2022年度の人事院勧告により、2022年4月に遡って+2.1%分の公定価格が増額改定されたが2022年4月～9月の『臨時特例事業』のうち、国家公務員給与改定対応部分に関する補助金(0.9%分)は返還して、実質は+1.2%分の増額となった。この増額分については、3月の一時金により、在籍する全職員に対して職種や採用形態にかかわらず、年間の各職員の所定労働時間に応じた金額を支給した。ただし、この公定価格の改定分については、2023年度以降は、給与規程を改定して、岡山市の民間保育士等処遇改善事業補助金が3%から2%に縮小されるため、岡山市処遇改善手当への法人調整部分に充当することや、住宅手当の増額改定を決定した。

## (2) 働き続けられる職場環境づくり

保護者の労働を支え、子どもにより良い発達を保障する保育園職員は、社会の多様なニーズへの対応が求められるとともに、個々の子どもや家庭への細やかな配慮が求められる。そんな中、保育労働は一段と過密化し、職員に大きな労働負担やストレスがかかっている。また、この3年間はコロナウイルス感染症の影響で、職場内だけではなく私的な部分でも行動制



限などの制約があり、職員の精神的負担が大きくなっている。

働き続けられる職場環境づくりでは、「子どもの幸せと家族の幸せと職員の幸せを同時に保障する」ことが求められ、職員ひとりひとりの実情を把握した職場環境づくりが必要になると考えている。そして、ここ数年は、様々な取り組みを試みることで「働き続けられる職場環境の改善」に力を入れている。

ただ、2022年度は、コロナウイルス感染症が園内でも幅広く拡大し、濃厚接触者については、法人の決定に基づき特別休暇を与えたが複数回なる職員や罹患する職員も多く欠勤が相次いだ。また、職員が何らかの理由で仕事が出来ない状況も多かった。具体的には、産休（1か月半）、母性保護（2か月半）、育休復帰延長（1か月）、病気（3か月）、怪我（1か月）など、職員が不足しても保育園は休園することができないため職員が勤務体制を保障するため超過勤務が増えたり、勤務表に組んでいた事務時間の保障ができずに超過勤務で対応することもあった。

また、新たな問題として、今年度は、急激に強まった物価高騰の影響を受け、職員の生活実態も厳しくなっているのではないかと感じている。配置基準の改善が求められる中、保育士の需要はさらに高まると思うが、保育士給与が抜本的に高まらないと人の確保や働き続けるモチベーションにならないのでこれに関する運動も強める必要があると思っている。

#### ① 希望休暇の取り組み

子育てや介護など私的な予定を勤務表に反映できるように、誰でも「希望休暇届出書」を提出でき、それに従った勤務を作成している。

希望休暇は、1か月に約70日程度ある。そのために必要な「代替職員」を、各年齢に準担任として配置することで、ほぼすべての希望休暇を叶えるとともに、子どもへの影響を最小限に留める努力をしている。

#### ② 有給休暇取得

昨年度に引き続いて、有給休暇を消化期間中に取得する取り組みを行い、職種や処遇に関係なく、在職するすべての職員が自身の有給休暇を流すことなく取得するよう取り組んだ。その結果、年度末退職者2名の時間有休部分である5時間の取得ができなかった。

また、有給休暇の発生は一般的には職員の採用月に連動しているが、全職員4月1日支給に改めたことにより、新採用の職員も採用当初から有休が利用できるようになった。

2022年度の有給休暇平均取得日数は、正規職員で平均22.2日（21名）、非正規フルタイムで平均20.2日（3名）、非正規短時間で平均13.0日（8名）になっている。

#### ③ 事務時間の保障

保育士は、勤務時間のほぼ全てを子どもと過ごしている。計画や記録などの事務時間は、通常の保育体制の中では難しい。そんな中、多くの保育士は持ち帰っての残業を余儀なくされていた。しかし、近年は、個人情報管理が厳しくなり園外への書類の持ち出しも禁止しているため、事務については残業せざるを得ないが、家族に負担をかけるためそれも難しい状況があった。

そこで、これらを解決するため、希望休暇取得を目的に配置した「代替職員」を、事務保障のための代替にも活用するようにした。この取り組みにより、クラスリーダーは月1日程

度、担任は半日程度の事務時間の保障ができた。月末や月初のタイミングで保障するところまではできていないが、まとまった時間を子どもから離れて必要な書類に記録したり計画を作成したり教材を準備するなどの時間を7補償できるので保育士からは喜ばれている。

また、給食職員は、翌日の献立指示書を基にした確認会議を実施している。その日のうちに行う業務（調理温度や衛生面に関する記録など）が日々必要となるため、職員定数（120定員は2名）より1名増やし、資格のない雑務の職員にも食器洗いなどでフォローしてもらっている。

2022年度勤務時間内で保障した事務時間の状況は以下の通りです。

・クラス担任の事務時間総計は約791時間

（内訳）①保育計画や記録の時間総計 約531時間（1人年間29.5時間）

保育計画はのべ169.5時間 1クラス当たり年間約18.8時間（月1.6時間）

個人記録はのべ361.5時間 1人当たり年間約20時間（月1.7時間）

②その他（お便り・保育環境整備・学校や医療機関の書類など）

その他の事務はのべ260時間 1人当たり年間約16.3時間（月1.4時間）

#### ④ 超過勤務

コロナウイルス感染症の影響もあり、行事を縮小したのでこの3年間は保育士や給食職員の超過勤務は減少傾向にある。しかし、感染症対策のための日常的な消毒や職員の欠員を補うために発生する超過勤務もあり時間数は増えている。また、今年度は、職員が欠員した場合の体制をつくるために朝や夕方に超過勤務をお願いすることが多かった。

2022年度の管理職を除く超過勤務時間の総計は1848.75時間だった。

（職種別）

\* 正規保育士は年間1515.25時間（1人当たり年間108時間・月9時間）

正規保育士でリーダーは年間891.25時間

（1人当たり年間111時間・月9.3時間）

正規保育士で担任は年間624時間（1人当たり年間104時間・月8.7時間）

非正規保育士は年間11時間（1人当たり年間2.75時間・月0.2時間）

\* 正規栄養士は年間132時間（1人当たり年間44時間・月3.67時間）

\* 正規事務は年間約190.5時間（1人当たり年間190.5時間・月15.88時間）

近年、制度改革が進む中、様々な補助金制度が新設され行政に提出する書類や事務量が急激に増えている。週0.5～1日程度は、休暇代替職員（派遣：保育士資格あり）が保育園事務を手伝う日を設けたが、職員の欠員などで代替に入ることが増え、事務の保障が難しい状況があった。次年度からは、副主任（保育士資格あり）が休暇代替になるので事務職員のフォローに当たれるよう考えている。事務職員が集中できる環境作りとしては、朝の電話連絡が減るようアプリでの連絡を可能にした。繁忙期の体制強化は今後の検討課題として残る。

#### ⑤ 相談しやすい体制づくり

現場保育士が、日々の悩みや気づきを相談しやすいように、3歳未満児の各年齢に相談指導の担当者としてサポーター（中堅保育士）を配置した。また、中間層を作り、果たすべき役割を受け持つことで、次世代の管理職を育成する目的もある。

担任からは「相談がしやすかった」「話し合いに入ってもらい、的確にアドバイスをもらえてよかった」などの感想があった。サポーターからは「3未と3上の連携がとれた」「3未の子どもの育ちを客観的にみることで、3上に向けて何が必要かを考えることができた」などの感想があった。

#### ⑥ キャリアパスの体制作り

処遇改善Ⅱ（キャリアパス）の対象者には、研修の受講が義務付けられている。これらの研修後に発行される証明書は対象者個人が取得した資格として取り扱われるため、従来から受講者は有給休暇を使い自費で研修に参加することにしている。

また、この対象者には、経験年数や園内の責任と業務量に応じた支給金額を設定し、その役割を果たしてもらっている。どの職員も自分に与えられた役割や任務を一生懸命果たそうとする姿が見られた。

## Ⅱ. 保育園の事業報告

### 1. 地域の概要

岡山協立保育園は、岡山駅から車で約15分程度のところに位置しており、高齢者とともに、近年では乳幼児も増えている地域になっている。また、周囲には多くの認可保育園や認定こども園、無認可保育所などがあり、保護者は勤務地に近いなどの理由で利用するケースが多くなっている。

### 2. 施設の概要

- 敷地面積 4180.52 平方メートル  
(うち駐車場の一部は借地…394.64 平方メートル)
- 延床面積 1144.47 平方メートル  
(園舎 792.49 平方メートル・増築園舎 251.29 平方メートル・屋外倉庫 20.72 平方メートル)

### 3. 定員

- 利用定員 120 名 (各年齢 20 名)
- 認可定員 165 名

### 4. 受入年齢

- 生後 57 日目から就学前まで

### 5. 保育時間

#### (1) 保育標準時間

- 午前 7 時から午後 6 時まで

#### (2) 保育短時間

- 午前 8 時 30 分から午後 4 時 30 分まで

(3) 一時預かり事業の保育時間

- ・午前7時30分から午後6時まで

## 6. 延長保育事業

- ・午後6時から午後7時まで

## 7. 職種別職員数

※3月末日の人数

※〔 〕は非正規の人数・派遣を含む

形態	職 種	施設長	主任 保育士	保育士	栄養士	調理員	事務員	保育補助	合 計
常 勤 職 員		1 人	2 人	18(4) 人	3 人	人	1 人	人	25(4) 人
短時間職員				6(6)				1(1)	8(7)
合 計		1	2	24(10)	3		1	1(1)	32(11)

## 8. 年間利用児童数

(1) 定員超過率 118.5 % (昨年度比 -2.6%)

(2) 月平均在籍数 142.25 人 (昨年度比 -3.0 人)

(3) 入園状況

種別	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0 歳		12 人	12 人	12 人	13 人	15 人	17 人	17 人	18 人	18 人	18 人	19 人	19 人	190 人
1 歳		24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288
2 歳		23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	25	25	280
3 歳		24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288
4 歳		30	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	349
5 歳		26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	312
合計		139	138	138	139	141	143	143	144	144	144	147	147	1707
入園児数		0	0	0	1	2	2	0	1	0	0	3	0	9
退園児数		0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

## 9. 一時預かり利用児童延べ人数

(1) 一時保育の動向

園内でのコロナウイルス感染症拡大防止のため、毎日利用できる方のみ受け入れたため、利用理由は、緊急（出産など）が0%、私的利用（集団経験・育休中）が0%、就労が100%になっている。そのことで利用者が伸びず、一時保育室を閉鎖して対象保育士をクラス担任に配置替えし、措置児の受け入れ数を増やし補助金の減額分を補う形となった。

本来は、様々な理由で利用できる一時保育のため、コロナが落ち着いたら一時保育をクラスとして運営していきたい。

- (2) 年間開園日数                    237日    (昨年度比 +5日)
- (3) 一日平均利用人数            2.65人 (昨年度比 -2.46人)
- (4) のべ利用人数                640人 (昨年度比 -581人)

## 10. 保育内容

### 【食育活動】

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために、今まで通りの食育は行うことができなかった。しかし、2歳児以上が季節の食材にかかわる取り組み（筍の皮むき、グリーンピースやそら豆のさやむき、トウモロコシの皮むき、芋ほりなど）は行った。

5歳児は、保育園駐車場のひまわり畑で季節の野菜を栽培し収穫した。裏園庭では、地域の渡辺さんや小谷さんが畑を管理して下さり「さつま芋ほり」などの経験を保障して下さった。

毎年恒例のお泊り保育では「冬野菜カレー」をつくった。お泊り保育以降もご飯炊き当番を継続し、自分が炊いたご飯を、3・4歳児や職員が食べてくれることを喜んでいた。

配膳時、5歳児は自分で食べられる量を注ぎ分けていたがそれができなくなった。そこで、職員が「大・中・小」に注ぎ分けたごはん・おかず・汁ものを、子ども自らが選べるようにした。自分で選び取り食べきれぬ経験は、自分自身を知る力にもなる。限られた条件の中での食育だが、子どもが実感できる生活経験を保障したいと考え行った。

### 【障害児保育】

私たちは、みんなに等しく同じだけという考え方ではなく、「必要な子どもに必要なだけの援助を提供する」という考えを持ち、子ども一人一人に合った個別の支援を大切にしている。

職員会議や研修を通して、子どもの見方や対応について本で学んだり、保育観察や事例検討などを行ったりする中で援助の仕方を具体的に考えて実践している。

3月末時点で園児は147名在籍しているが、子どもの状況は以下の通りである。

自閉症スペクトラム、軽度知的障害などの診断書が出ている子どもは12名(8.1%)、診断は出ていないが療育に通っている子どもを含めると18名(12.2%)が該当していた。

学年別に見てみると、5歳児26名中7名(27%)、4歳児29名中4名(14%)、3歳児24名中0名(0%)に診断書が出ている。情緒障害や知的障害以外にも、心臓に疾患がある子どもが多く緊急時はAEDが必要な子どももいる。また、知的発達が遅くゆっくりな子どもや歩行機能が身に付きにくい子どももいた。

5歳児が行う様々な取り組みでは、子どもの要求に細やかに対応するため、グループを少人数(3人程度)にして、時間的ゆとりを持って取り組むようにした。子どもたちは、集団活動に期待と意欲を持っており、仲間と共にやり遂げたいという思いから力を発揮す

る姿へと変わっていった。

#### 【参観・個人懇談・クラス懇談】

クラス懇談を5月に開催し、子どもの様子や1年間の保育方針を担任から伝えることができた。「クラスの子どもの様子や大切にしていることを担任から聞く機会ができてよかった」などの声も聞かれたが、感染対策のため、保護者同士の意見交換は行わなかった。保護者の感想文には「保護者同士で話し合う時間がほしかった」などの意見もあった。次年度は、意見交換会も行いたい。

保育参観や個人懇談については、昨年度より大幅に参加人数が増えた。感染拡大期以外は1日に受け入れる人数を制限しながらできる限り実施した。保護者は、園内での子どもの様子が分かる貴重な機会ため喜んで参加してくれた。

保護者の参加状況

- |                     |                  |
|---------------------|------------------|
| ・クラス懇談会に参加した世帯数     | 76.5%            |
| ・保育参観（保育参加）に参加した世帯数 | 83.4%（前年比24.4%増） |
| ・個人懇談を実施した世帯        | 94.5%（前年比32.5%減） |

#### 【地域との交流】

感染拡大防止のため、開催されなかった。

#### 【父母の会活動】

定例役員会が月に1回予定されていたが、感染状況により中止になった月もあった。

昨年度に引き続き、父母の会主催の親子遠足は、密を避けながら参加しやすいように数日に分けて行った。行先は「池田動物園」や「いちご狩り」で、各世帯が自家用車などを利用して集合し、現地で交流する内容にした。こういった取り組みを通し、父母の会から各世帯に会費の一部が還元された。参加者は、延べで30世帯名だった。

そのほか、前年度取り組めなかったリユースを実施した。

また、他園での事故を受け、父母の会の機関誌「わいわい通信」を活用し、送迎時に遊具を利用して遊ぶ場合の心得などを記載し保護者が目を離さないよう見守ることを注意喚起した。

#### 【安全対策】

##### ① 非常時訓練

月1回の「避難訓練」「消火訓練」を実施した。「避難訓練」は、火災、地震、水害などを想定した訓練で毎月行っている。1月には中区消防署倉田出張所の職員立ち会いのもと、火災を想定した避難訓練と水消火器を使った消火訓練、模擬通報訓練、そして、消防自動車の見学を行った。毎月の避難訓練の成果もあり、子ども達が静かに迅速に避難する姿を見て、消防署員が「避難時間も短く、避難態度も良かった」とほめて下さった。

また、「不審者訓練」も行ったが、取り組み回数が少ないため不審者の動きを想定した職員の動きで課題もあった。訓練前には、職員の役割や動きを書いたシミュレーションを配って実際に3歳以上児は園舎北園庭に避難した。乳児棟は、鍵を掛ける人や誘導する人などの動きが不十分であることが分かり改善について話し合った。そして、実際の動きの

中で明らかになった反省点を基に職員の役割分担や動きの見直しを行った。

非常災害時への対応としては、非常災害備蓄食料（離乳食を含む）を、園児と職員で3日分準備している。また、クッション付きアルミマット・保温用アルミシート・メガホン・ラジオ・ライト・簡易トイレ・発電機なども準備し、岡山市より支給された「岡山市緊急告知ラジオ」も、緊急地震速報や避難勧告・指示などを伝えるものとして設置している。

非常災害用品が増える一方なので、どのように保管するかの再検討が必要になってきている。

園では、緊急時の連絡を保護者と確実にを行うための緊急メールを導入している。このシステムは、県外にメールサーバーがあり、子どもたちの安否情報を確実に伝えることが出来るとされ、緊急時以外にも必要があれば活用しており、今年度はコロナによるクラス閉鎖の際にも活用した。

次年度からは、NTTの「コドモン」を活用しより使いやすくしていきたい。

## ② 事故への対策

園内には「安全委員会」があり、毎月2人1組の8チームで園舎内と園舎外の嫣然点検を行っている。今年度も、クライミングやのぼり棒のボルトが緩んでいることに気が付き専門業者に修理を依頼したりした。安全を保障する取り組みであるとともに、職員の安全への意識を育てる取り組みとして行っている。

毎年行っている、岡山協立病院職員を招いての「救命救急講習会」は、コロナウイルス感染症拡大防止のため実施できなかった。

エピペンの使用方法については、職員でチームを組んで実践的なシュミレーションを行った。

必要な園児に対し即座に対応できるように訓練を積み重ねている。

園内では、どんな些細なけがでも「事故報告書」に記載して、管理職に提出することになっている。また、毎月の安全委員会では「けがの原因は何か」「どの時間に多いか」などを確認し、委員会で話し合うようにしている。その後、必要なことは職員会議で報告し、全体で共有し改善している。

## ③ 登降園の管理と午睡チェック

園児のバスや自家用車での取り残し事故が起きている。この事故を受けて、法人内でも、子どもの登降園の確認が園内でどのように行われているかの共有をした。園児が登園していないにも関わらず保護者から連絡がない場合は、9時半時点で保護者に電話連絡を入れるシステムになっていることを確認した。

また、午睡チェックについては、うつぶせ寝の危険に関する学習会を行い、どういう状態をうつぶせ寝とみるのかを共有した。また、チェックシートを変更し時間ごとに記載ができていないかをチェックするようにした。次年度からは、より使いやすくなるように「コドモン」の午睡チェックを活用することになっている。

## ④ 新型コロナウイルス感染症の状況

新型コロナウイルス感染症が発生して約3年が過ぎた。2022年度は、この感染症の6～8派に相当し、園内でも7～8波の影響を受け感染者が最も多い1年となった。

園内では、「ハイタッチゾーンの定期的な消毒」や「換気」への取り組みに加え、考えつくあらゆる対策を講じましたが家庭内感染も多く発生し感染者が拡大した。

感染拡大の中、必要に応じて職員間の情報共有を行い、コロナに関する学習会も開いた。また、保護者への情報提供も心掛け、行政からくる情報や取り扱いの変更などについて速やかに伝えるよう努力した。2022年度の園児感染者はのべ80名、職員の感染者はのべ16名だった。これ以外に、濃厚接触者になった園児や職員は非常に多くいた。保育園は、幼稚園とは違い休園することができないので、職員の欠員があっても保育を止めないよう努めた一年だった。

#### (職員)

クラス閉鎖などが起きた場合や職員の感染が認められた場合は、園内で準備していた検査キットを使用し検査を行った。その場合、初めのうちは全職員を対象にPCR検査や抗原検査を実施した。感染者が確認されても、職員が安心して働けるように最大限の対応を行った。

年度の後半に向けては、徐々に周りの職員の検査は緩めていった。毎日の仕事では、消毒作業(場所や回数)の確認、保護者の感染対策(観光地や県外に出向いた方の門対応)など、きめ細やかな対応に取り組んだ。

職員の感染や濃厚接触者になることで欠勤が増えたが、保育体制を工夫し開園することができた。

#### (保護者)

保護者に伝えたいことは「おたより」にして発信した。保護者には、園での取り組みを知ってもらうとともに、いざという時に何をどうすればよいかを伝えるよう心掛けた。保護者は、クラス閉鎖になった時も冷静に対応してくれ、園に対する苦情やご意見等は頂いていない。折に触れた情報提供は、保護者の理解と協力を得るために必要だったと考えている。

### ⑤ インフルエンザの感染状況

2月の13日から約2週間で41名の子どもがインフルエンザに感染した。ももぐみで27名中20名、さくら組が27名中14名、うめ組が25名中4名だった。ももとさくらは、トイレを共有しているため影響があるのかもしれないと感じた。3歳未満児は3名のみで、兄弟の下の子よりも保護者が感染しているように感じた。園児144名のうち41名が感染したが、市の担当課に電話をしたら、感染の始まりから3日目ごろに10名を超えるぐらい感染が急激に広がる園が多いと話していた。急激に感染したが、重症になる子はいなかった。

### ⑥ 不適切保育に関する学習

今年度は、管理職が不適切保育に関する講演を聞く機会を持った。その中で、現場職員同士の良い関係が必要になることを感じ、学習や討議を行うことにした。

読み合せ学習会の後、職員に不適切保育のセルフチェックリストを各自記入してもらい、グループ討議を行った。結果としては、経験年数が高い職員ほど数値が高くなる傾向にあった。職員の中には、「子どもに対応する際は気を付けているが、こんなことも該当するのかと認識を新たにした」「普段から、子どもに対する対応で悩んでいることが話せてい



たら、上手くないことも減り子どもとの関係性がよくなるではないか」という話が出た。今後も、定期的に行いたい。

#### 【保育運動】

今年度は、全保連が作成した保育制度に関する動画（保育制度入門講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）を職員で視聴したり、愛知県から広がった「子どもたちにもう1人保育士を！」運動の取り組みについて読み合せをしグループ討議をする機会を設けた。

動画を見た職員からは、「なぜ、保育士の給与が低いのがよくわかった」「今まで知らなかったが保育制度のしくみについて知ることができた」「保育園の頑張りだけではよくなるということが分かった」などの感想が寄せられた。また、愛知の配置基準改善を求める運動の中で収集された「保育士のリアルな声」を知る中で、「その通りだ。ここに書いていることに共感できる。」「いまの配置基準では大変だと思っていたが、やっぱり今の制度はおかしい。もう1人保育士が必要だと思った。」など、現状を捉え、おかしいと感じたことを運動として展開していくことが大切だということを経験した。

## 1 1. 職員会議及び総括・方針会議

(1) 職員会議 毎月第1土曜日

(2) 総括・方針会議

昨年度はできなかった総括会議を、2月11日・23日に実施した。今年度は、例年行っている「気づき発表会」を、より詳しく事例として書き出し発表することにした。事例は、この一年で自分がどういうことに心が動いたかをポイントに選び記載したものだ。

コロナの3年間で、自分の体験を語り、集団で「こういうところが良かった」「こういう風にしたらうまくいった」「自分も同じような経験があった」など、語り合う風土が削り取られていたがそれに対する再挑戦のつもりで行った。職員からは「いろいろな考えに出会えて参考になった」「やってみようと思えるヒントが見つかった」などの感想が聞かれた。ひとりひとりの職員の頑張りがよくわかる事例検討会になった。

## 1 2. 年間行事

(1) 行事の取り組みをとおして

園では、年間を通して子どもたちに豊かな体験を保障するよう心がけており、子どもたちは季節の行事などを楽しみにしていた。

しかし、感染拡大防止のため通常の行事を縮小または中止したり、形を変えたりして実施することにした。大きな行事の実施時期は、7月下旬～11月下旬までとし、感染症が活発になる冬場を避けて実施した。今年度は、感染の波に行事が入らなかったことで大きな行事はすべて実現できた。

参加した保護者は、「コロナ禍でも行事を行ってくれて感謝しています」「感染対策を細やかにやっている環境で見学できたので、安心して参加できました」という内容が多く、ほぼすべての世帯が行事の実施や感染対策に対する感謝を述べられ、子どもの成長した姿を喜んでいた。

以下に子どもの行事を報告する。

#### ① 水あそび・プールあそび

可能な限り水遊びやプール遊びに取り組んだ。1～3歳児が水あそびを、4～5歳児がプールあそびを行った。水遊びもプール遊びも密にならないように、年齢ごとに少人数でしっかり遊べるようにし、いずれも流し水で対応した。子ども達が、気持ちよさそうにあそぶ姿が印象的だった。例年行っていたプール大会は中止した。また、水の事故から子どもを守るため監視に専念する大人をそれぞれの場所に配置し安全を確保して遊べるようにした。

担当課からは、着替えの時に密にならないように指導があった。3歳以上児クラスでも、職員が着替えの時間につき子どもが自分の場所を認識しやすいように一人一枚すのこを準備するなど空間を確保しながら行った。

#### ② ちびっこまつり【参加者：200人】

身体を使った取り組みの発表会だが、屋外でも密にならないようにするため、平日に園庭で1学年ごと6日に分けて行った。今年は5歳児のパラバルーンを実施した。

内容は、子どもの競技のみで、見学者は各世帯2名までの入れ替え制で行った。子ども達は、どの子も一生懸命頑張る姿があった。例年通りの競技を行ったが、自分ができたことがうれしくて、できない友達に寄り添い、できるようになるまで応援しやり方を教える姿も見られた。

0～1歳児は、新園舎のホールで遊ぶ姿を保護者に隠れてもらった。「普段から、こんな風に遊んでいることがよくわかり安心した」「成長がみれて感動した」「いつもの運動会では、親子競技だけだが、今回は子どもの姿をじっくり見ることができてうれしかった」などの感想があった。2歳児以上の保護者からも「いつもより、間近で見ることができて良かった」「5歳児のバルーンを見ることが出来てうれしかった」「かけっこやりレーを見れて成長を感じた」「子どもも保護者も入れ替わり制だったので、子どもの競技までの待ち時間が短く、どちらも集中しやすかった」などの感想があった。コロナ後のちびっこまつりの開催方法については今後検討していきたい。

#### ③ お泊り保育【年1回】

今年度は、夏のお泊り保育の直前に園内で感染の拡大があったためやむなく中止した。冬のお泊り保育は、保育園に宿泊する形で実施した。移動販売車「とくしまる」にも来てもらい、本物のお金で買い物をする体験ができた。

主な活動として、「カレー作り」と「木工体験」、「もみすり」を行った。5歳児は、年間通して米作りに取り組んだが、自分たちで育てた米を脱穀して食べた。また、秋の自然物で様々な作品を作ることを楽しんだ。

今年度は1回しか経験できなかったが、子ども達は生き生きと取り組むことができ。

#### ④ おおきなあれのつどい【参加者：117人】

表現活動の発表会として、平日に2日に分けて行った。今回は、ホールを舞台に発表した。見学者は、各世帯2名までの入れ替え制でおこなった。到着順で、世帯ごとに健康チ

エック表へ記載してもらい車中で待機してもらった。

子ども達は、保護者が見に来てくれていることがうれしく頑張る姿が見られた。堂々と台詞を言いながら演じる姿や台詞を覚えて友達が困っていると助けてあげる姿もあった。子どもの姿は生き生きしていて保護者の感動を誘った。

#### ⑤ にじのこまつり

コロナの影響を受け、子ども達もクラスを越えた取り組みができず、大きい子の姿を見て憧れたり、小さい子とともに遊ぶ経験が減少していた。また、子ども達が楽しみにしていた「おつきみかい」を開催することができず、楽しい経験が減っていた。そこで、5歳児が組織する「にじのこまつり」の取り組みを2021年度から始めたが、その年は感染拡大期でできなかった。

今年は「にじのこデパート」と題し、自分たちが考えて作ったものを売り、その他のクラスの子どもが買いに来る取り組みを行った。開催期間は3日間だが、日を重ねるごとにおもちゃを作って売るだけではなく、「どうすればよく売れるのか?」「売れ筋商品を量産しよう!」など、自分たちで必要なことを考え、協力しながら行動する姿があった。子ども達の達成感も大きかったようで「楽しかった。またしたい!」という声がたくさん聞かれた。

当園が掲げている子ども像でもある「生活やあそびをつくりだす子ども」「ともだちと育つ子ども」にピッタリの活動と姿を見ることができた。この取り組みについては、次年度以降も5歳児が行う「あそびの集大成」として続けていきたいと思えます。

#### ⑥ 卒園式

3クラスに分かれて入れ替え制で行った。今年度は一部の保育士と保護者(各世帯2名)とそのクラスの園児のみで行った。本当は、昨年同様5歳児の仲間が参列出来たら良かったが、感染が急速に拡大する中で、各世帯2名の参加で卒園式を行うためには、椅子の配置などを考えると参加人数を減らすしかなかった。式の内容も、保育証書の授与のみにし時間を短縮した。

卒園式は、保育園で過ごした日々の集大成であり、保育園最後の晴れ舞台でもある。この日に、通常通りの卒園式ができなかったことは、本当につらい気持ちではあるが、子ども達は堂々とした振る舞いで証書を受け取り、子どもが証書に描いた絵は丁寧に描かれていることに感動した。

(2) 年間行事

—中止した行事—

- \* 子ども対象の園内行事 = プールじまいの会、すもう大会、芋ほり遠足、ひなまつり茶会、角笛ソット劇場観劇
- \* 保護者対象の園内行事 = 保護者総会、家庭訪問、救命救急講習会
- \* 地域から招かれた行事 = お茶会、旭東こどもまつり、民話の会、お化けやしき、絵本を楽しむ会、ふれあい会食、4園交流運動会
- \* 地域の方を招く園内行事 = おつきみかい、宿題応援隊、園庭開放、劇団風の子

実施月	保育園行事	健康管理・安全管理・災害訓練	地域行事への参加 他団体との連携行事
4月	進級おめでとうの会 * 進級のお祝い(3歳以上児) いのちを大切にす日		
5月	端午の節句の会 お弁当の日・徒歩遠足 クラス懇談会		
6月	お弁当の日・徒歩遠足 平和の会	定期健康診断① 尿検査(3上) フッ素塗布①	
7月	七夕の会 お泊り保育①		交通安全指導②
8月	土用の丑の日の会		
9月	ちびっこまつり		
10月	ちびっこまつり お弁当の日・徒歩遠足 お泊り保育② 就学前懇談会 劇団風の子「一人芝居」観劇会	フッ素塗布②	
11月	おおきなあれの集い(3歳以上児) お弁当の日・徒歩遠足	定期健康診断② 歯科検診	交通安全指導②
12月	お弁当の日・徒歩遠足 クリスマス会	通報/消火訓練	
1月	七草の日 鏡開きの会 にじのこまつり	総合訓練	
2月	節分の会		
3月	お別れ遠足 卒園式	フッ素塗布③	交通安全指導③
毎月		避難・消火訓練 身体測定	
随時	保育参観・個人懇談		

13. 職員研修

(1) 研修状況

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐため、年間通じて、園外へ出向く研修会への参加や園内に講師を招いて行う研修会には参加しなかった。研修の主催者も、リモート

研修会を企画するところが多くなり、園の環境も整ってきたため、リモート研修会への参加になった。

(2) 研修一覧

	主催	研修名	参加者
全国	全国保育団体連絡会	全国集会	7人
	全国保育問題研究会	全国集会	7人
	全国幼児教育研究協議会	全国集会	2人
	保育プラザ	乳児保育	7人
		幼児保育	2人
		食育	3人
		マネジメント	1人
	新人研修	1人	
	主体性を尊重する保育	3人	
神戸	神戸コグーイ芸術教育研究所	乳児保育 環境	3人
		乳児保育 あそび	3人
		0.1歳児の食事	1人
		幼児保育 あそびと環境認識	2人
		新任保育士研修	1人
岡山	岡山県	私保連保育セミナー	3人
		コーチング	1人
		マネジメント	1人
		食育	2人
		特定給食施設関係者研修	3人
	岡山市保健所	特定給食施設関係者研修	2人
	岡山市保育協議会	危機管理	1人
		保育理論	1人
		保育実践	1人
		ハラスメント	1人
		特別支援	1人
		食育	1人
		マネジメント	1人
乳児保育	1人		

# 経 営 報 告

## 1. 総合評価

今年度は、新型コロナウイルス感染症による影響は徐々に鈍化しつつあるが、依然として、消毒等の感染対策強化にかかる費用の支出は年々増加し続けている。特に、第7波においては、クラス休園や、職員による消毒の強化を実施したことも影響したと思われる。また、水道光熱費については、新型コロナウイルス感染症の感染対策として実施した、常時換気が支出額の増加に繋がった。

特に懸念された、物価高騰の影響について、給食材料費では、対前年比において、受け入れ児童数が97.8%で-2.2%であるにもかかわらず、支出額は101.5%で+1.5%だったことから、実質103.7%で+3.7%の支出増となった。なお、園児一人当たりについて平均+160.5円/月となった。水道光熱費の高騰について、特に、電気代が著しく増加している。対前年比で、1kWhあたりで換算すると平均33.37円の値上がりとなっていた。物価高騰対策については、臨時で1,604千円（岡山市市事業継続支援金（給食費）515千円、岡山市事業継続支援金（光熱費）600千円、岡山市商工会議所エネルギー価格高騰緊急対策支援金169千円、岡山県物価高騰対策支援金120千円、中国電力節電プログラム200千円）の各種支援金・助成金等が支給された。対前年度決算で給食費+115千円、水道光熱費+611千円であったことから考えると、物価高騰はあったものの、補助金等の支給により実際の影響はほぼなかったことがわかる。

保育事業収益のうち、委託費収益は前年度と比較して-1,877千円となった。各種加算を前年度と比較すると、栄養管理加算が区分Aから区分Bに変更となったため-364千円、新型コロナを理由とした交流会の中止に対する特例措置が廃止されたことで加算認定がおりなかったため小学校接続加算-95千円、園児の受け入れによる基本分・処遇改善等加算（基礎分12%）・3歳児配置改善加算のすべての合計は-5,840千円となった。

賃金改善に対する加算では、処遇改善等加算Ⅰは平均勤続年数が11年を超えたため6%から7%となり+1,208千円（対前年度比+17.5%）、昨年度2月より補助事業で実施されていた保育士・幼稚園教諭等処遇改善臨時特例事業は10月から処遇改善等加算Ⅲへ移行したため+1,686千円、人勤による公定価格改定分（+2.1%）+1,919千円で賃金改善に関する加算の増額分は前年度と比較して+4,813千円となった。

園児全体の受け入れ児童数は延べ1707名（定員超過率118.5%）で前年度より述べ37名減少したことが委託費収益の減額に大きく影響した。また、短時間認定児童数が述べ104名（前年度は82名）となり、育児休業中によるものではなく、保護者の就労状況による認定児童が16.3%（前年度は14.6%）と微増した。

補助金事業収益（公費）は、前年度と比較して1,097千円の増額となった。主な内訳を前年度と比較すると、一時預かり事業が-912千円、障害児保育対策事業-1,002千円、アレルギー児対応調理員等加配助成事業+700千円、保育士・幼稚園教諭等処遇改善臨時特例事業+1,829千円だった。県産材授与拡大総合対策事業+230千円は、県産材を活用して施設整備を実施した際に、木の里工房木薫より購入した461,334円（テーブル③152,004円・四角型ｺｰﾅｰ棚⑤133,045円・扇型ｺｰﾅｰ棚⑤176,285円）に対する補助金。

経常経費寄附金収益は965千円だった。内訳は、役員・職員338千円、父母の会・卒園児等627千円で、前年度と比較して796千円の減額となった。

人件費は、前年度と比較して3,712千円増加した。職員給料+6,937千円（定期昇給 約100万円、栄養士増員 約185万円、超過勤務手当約50万、特別配分手当 約300万円、通勤手当または住宅手当 約40万円、岡山市処遇改善手当150千円）、職員賞与・賞与引当金繰入が3,029千円（夏季・年末手当 約275万円、特別手当 65万円、人勸対応分21万円、コロナ対応手当4万円、特別配分手当-51万円）、非常勤職員給与が-7,253千円（長時間勤務分-582万円、短時間勤務分-220万円、寸志-9万円、特別手当39万円、岡山市処遇改善手当-9万円、人勸対応分12万円、コロナ対応手当-6万円、特別配分手当49万円）、派遣職員費+571千円（コロナ対応手当0.6万円、特別配分手当15万円）、法定福利費+516千円だった。

事業費は、昨年度と比較して1,870千円増加した。主な内訳を前年度と比較すると、保育材料費+463千円（3歳以上児を4クラス編成にするための教材等準備）、水道光熱費611千円（価格上昇による）、消耗器具備品費395千円（木の里工房木薫から保育消耗品等購入）、賃借料+297千円（レンタルおしめの利用希望者が増加）だった。

事務費は、昨年度と比較して582千円増加した。主な内訳を前年度と比較すると、福利厚生費-669千円（新型コロナウイルス感染症対策のための検査費用が減少、奨学金返還支援手当の対象者が3年経過したことによる支出減）、事務消耗品費+434千円（インクジェットプリンター買替、会議用テーブル2台購入、タブレット5台購入）、業務委託費+382千円（エアコンクリーニング実施）だった。

雑収益+1,799千円（物価高騰対策に関する各種助成金1,604千円を含む）。

施設整備等補助金収益で、1,627千円を受け入れている。内訳は、岡山県による県産材利用促進対策事業補助金1,146千円、施設整備に係る部分として岡山市新型コロナ対策緊急包括事業481千円、給食室食器保管庫購入のための共同募金配分金390千円。

固定資産取得支出の内訳は、建物附属設備取得支出（基本財産）として、幼児用便器（3上）取替工事341千円、建物附属設備取得支出として、県産材利用促進対策事業補助金活用して設置した小ホール入り口きりんさんパーティション160千円、0,1歳児エントランス パーティション198千円、器具及び備品取得支出として、掃除機DP2000ドルフィン300千円、Wi-Fi整備として、無線アクセスポイント3台371千円、スライドナーサリーベッド102千円、電気式食器消毒保管庫799千円、災害用発電ジーキュービック160千円、会計用パソコン199千円、室内案内看板609千円、円筒遊具（長さ3m）2台997千円、おままごとハウスキット371千円、共有ハードディスク一式209千円、かまくら1,650千円。

積立資産支出では、2023年度に実施予定の園舎北側通路整備工事、LED照明器具の導入工事等に活用するための保育所施設・設備整備積立金10,000千円を計上していたが、決算により保育所施設・設備整備積立金+5,000千円を積み立てたことで、現在高は、人件費積立金35,000千円、保育所施設・設備整備積立金88,000千円となった。

法人全体の貸借対照表で前年度末と比較すると、流動資産は+1,374千円、固定資産は+6,974千円となった。当期活動増減差額は、前年度より5,130千円減少したが、18,080千円となっており、純利益に相当する額としては評価できると考えている。経営状態は良好であるといえる。

## 2. 施設整備の状況

### (1) 土地・建物の取得

特になし

### (2) 建物・備品等の修理・修繕

- ・券売機（一時預かり事業） 新500円玉硬貨対応
- ・給食室 流し排水 つまり抜き
- ・園舎 メンテナンス工事
- ・エアコン室内機 パネル交換（うめ・たんぼぼ）
- ・スチームコンベクションオープン 軟水器カートリッジ交換
- ・滑り台修理
- ・ブランコ修理
- ・給食室水栓吐水口取替
- ・移動キッチン 床下給水装置改修
- ・冷凍庫修理（2回）
- ・事務所 ブラインド修理

### (3) 設備・備品等の整備

- ・幼児用便器取替工事 2台
- ・小ホール入り口 きりんさんパーティション
- ・0,1歳児エントランス パーティション
- ・掃除機DP2000ドルフィン 1台
- ・無線AP 3台
- ・スライドナーサリーベッド 1台
- ・電気式食器消毒保管庫 1台
- ・災害用発電ジーキュービック
- ・会計用パソコン
- ・室内案内看板
- ・円筒遊具（長さ3m） 2台
- ・おままごとハウスキット
- ・共有ハードディスク式
- ・かまくら 1台